

建設現場における遠隔臨場の導入（試行） － インフラ分野のDX推進 －

【遠隔臨場の取組み背景】

伊賀市では、国や三重県が推進するインフラ分野のDX（デジタル・トランスフォーメーション）である「遠隔臨場」を活用し、建設現場の臨場に係る移動時間の削減や立会いの調整時間の削減を図り、建設現場の働き方改革、生産性向上に資する取組みとして、伊賀市が発注する全ての建設工事及び業務委託を対象として「遠隔臨場」を試行するものです。

【遠隔臨場のイメージ】

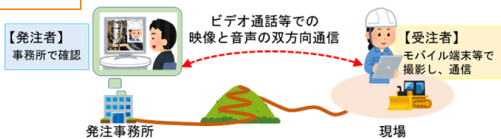
従来



- ・発注者は車等で移動。
- ・受注者は確認の準備を行ったのち、発注者が来るまで待機。
- ・段階確認等の日程調整に難航。
(発注者: 別の予定があり現場へ行けない
1時間だけなら何とかできるのに...)
(受注者: ●時に確認してもらいたいのに...)

デジタル技術を活用して工事現場は進化しています！

遠隔臨場



- ・発注者の移動時間が削減。
- ・受注者は段階確認等の待ち時間がなくなる。
- ・段階確認等の日程調整が円滑に。

移動時間、待機時間の削減による受発注者の作業の効率化

【導入イメージ】

工事の
円滑化



※ 導入イメージ：国土交通省関東地方整備局ホームページの公表資料より抜粋

移動時間
が削減！

【導入効果】

- ① **安全性の向上**：遠隔臨場を活用することで、建設現場における危険な場所に実際に立ち入る必要がなくなります。
現場での事故を減少させ、労働者の健康と安全を保護することができます。
- ② **生産性の向上**：遠隔臨場を使用することで、現場に行くまでに時間やコストがかかる問題を解決できます。
建設のプロセスがよりスムーズに進み、工程を追跡して進捗状況を把握することができます。
- ③ **コミュニケーションの改善**：遠隔臨場を活用することで、建設現場の監督と労働者の間のコミュニケーションを改善できます。
問題を迅速かつ効果的に解決することができ、労働者と監督の相互作用を強化できます。
- ④ **環境にやさしい**：遠隔臨場を使用することで、労働者や監督の移動による燃料の使用や排出物の発生が減少します。
また、現場での不必要な廃棄物の増加を避けることができます。